

令和 4 年 6 月 2 日現在

機関番号：15301

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12229

研究課題名（和文）ソ連およびポスト・ソ連期のロシアにおいてメディア上の都市表象が果たした役割の研究

研究課題名（英文）A Study of Urban Representations in the Media in Soviet and Post-Soviet Russia

研究代表者

本田 晃子（Honda, Akiko）

岡山大学・社会文化科学学域・准教授

研究者番号：90633496

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ソ連におけるマスメディア、とりわけ映画内における建築および都市空間の表象を取り上げ、これらのイメージがどのような意図の下、どのように操作されてきたのかを論じた。スターリン時代の映画作品に関しては、モスクワ地下鉄の地下鉄駅やソヴィエト宮殿などの描写を分析し、首都を特権化し神話化する意図を明らかにした。フルシチョフ期以降の映画作品に関しては、特に集合住宅のイメージを中心に論じ、ソ連における美学や建築政策の転換が、映画内の空間描写にどのように反映されていったのかを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が直接の研究対象としたのはソ連という限定された時代・地域の問題ではあるが、マスメディアに対する権力の介入や操作は、現代世界においても決して例外的な現象ではない。したがって本研究の成果は、ソ連におけるイメージを通じた統治のメカニズムの一端を明らかにした点のみならず、われわれが今後メディア上のイメージをどのように理解し、それらをどのように扱っていくべきかを示唆するという点でも、一定の意義を有していると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on the representation of architecture and urban space in the mass media in the Soviet Union, particularly in films, and discusses how these images have been manipulated and with what intentions. In analyzing film productions from the Stalin era, I discussed the depiction of Moscow metro stations and the Palace of the Soviets, revealing the intention to privilege and mythologize the capital city. The analysis of films made after the Khrushchev era focused on the images of housing complexes, revealing how the shift in aesthetics and architectural policy in the Soviet Union was reflected in the spatial depictions in the films.

研究分野：表象文化論

キーワード：ソ連建築 映画 全体主義 スターリニズム

## 1. 研究開始当初の背景

本研究では、実体としての都市や建築物ではなくマスメディア上のそれらのイメージが現実の人びとや社会における空間概念にどのように影響してきたのかを探究した。具体的には、メディアに対する統制が常態化し、人びとの移動が制約されたソ連体制下における建築・都市イメージを分析対象とした。

1920年代から30年代にかけてのソ連の建設期に、首都モスクワは重点的な再開発の対象となった。この再開発の背後には、単なる都市の近代化のみならず、新しい首都の姿を通して、全ソ連人民に來たるべき社会主義共同体のイメージを提示するという目的があった。そしてこのイメージの共有において大きな役割を果たしたのが、新聞や雑誌、映画などのマスメディアだった。実際にはその計画の多くが実現されずに終わったにもかかわらず、新しい首都のイメージが社会的求心力を有し、その建設に多数の人びとを動員することができたのは、メディアを通じてそのイメージが広範に共有されたことによる。

しかしこれらメディア上のイメージは、必ずしも「現実の」モスクワと一致してはいなかった。それらは恣意的に取捨選択され、編集され、いわばメディア上にもうひとつのモスクワ、モスクワのシミュラクルを形成した。したがって本研究の主眼は、スターリン期以降のソ連の建築・都市イメージを、このようなメディア上の操作の産物とみなし、それらがどのような意図の下でどのように作成されたのかを分析する点にある。モダニズム建築を同様の観点から論じた研究は既に存在するが、モダニズムを抑圧し、それにとってかわった全体主義建築、とりわけスターリン時代以降のソ連建築を論じた先行研究は存在しない。しかしこのようないわば建築・都市のシミュラクル化は1930年代のスターリン期のソ連において、政府のプロパガンダ政策に組み込まれながら、よりラディカルな形で進行したと考えられる。ゆえに本研究では、ソ連におけるマスメディア、とりわけ当時最も強力かつ広範な影響力を有していた映画に着目し、全体主義と建築のマスメディア化がどのように結びつくことになったのかを問うことになった。

## 2. 研究の目的

以上の背景を踏まえて、本研究では映画を中心とするマスメディア上のモスクワ・イメージがスターリン期のモスクワの神話化に果たした役割、および1960年代以降のその変容・解体のプロセスにおいて果たした役割を解明することを目指した。

これまでソヴィエト建築史研究では、このようなメディア上の言説・イメージについては、問題が通常の「建築史」の範疇を超えるがゆえに、ほぼ等閑視されてきた。けれども実際には、スターリン期の大規模建設計画は、国家の一大プロジェクトとしてメディア上で大々的に宣伝され、大衆を動員するプロパガンダ装置として機能した。ほぼ同時期のドイツでは、ヒトラーの建築家アルベルト・シュペーアによって設計されたニュルンベルク党大会会場が映画『意志の勝利』の舞台として利用されたが、ソ連ではより徹底して建築がプロパガンダに利用されたのである。言い換えれば、スターリン期のソ連のような全体主義体制下において、特定の都市・

建築空間がいかにして絶対的権威の表象となり、どのように統治システムに組み込まれていったのかを解明するためには、メディアの果たした役割を考察することが不可欠なのである。さらに脱スターリン化の過程（いわゆる「雪解け」の時代）においても、ゲオルギー・ダネリヤの『僕はモスクワを歩く』（1963年）などの映画作品に描き出された都市や建築のイメージは、新しい体制の理念を伝える上で無視できない役割を果たした。

したがって本研究では、建築・都市表象に関する下記の三つのテーマを設定し、首都モスクワをめぐる神話の建設・解体のプロセスを解明することを試みた。

### 3. 研究の方法

本研究では主として、モスクワ地下鉄の地下鉄駅、モスクワの集合住宅、スターリン時代のモスクワ開発計画の三つのテーマを中心に分析を進めた。

まずテーマ1では、スターリン時代のモスクワを代表するモニュメンタルな建築空間として、モスクワ地下鉄の地下鉄駅の表象を取り上げた。1930年代に建設が開始され、その豪華な内装によって「地下の宮殿」として知られるモスクワ地下鉄駅は、スターリンのモスクワ再開発計画の柱であり、社会主義の理念と偉業をプロパガンダするための空間でもあった（このような地下鉄駅は、のちに中国や北朝鮮にも輸出された）。現代ロシアの思想家ミハイル・リュクリンは、スターリン期のメディアに出現した、地下鉄駅とは「地下の宮殿」である（あらねばならない）とする議論を、地下鉄言説と名付けている。これらの壮麗な地下鉄駅はしばしばソヴィエト映画の背景にもなり、首都モスクワの神話化を促進した。

したがってテーマ2では、まずスターリン時代の映画において、地下鉄駅がどのようにモニュメンタルな「地下の宮殿」として描き出されたのかを分析し、フルシチョフ時代以降にそのイメージがどのように変遷したのかを、30年越しに同一駅でロケしたダネリヤの『僕はモスクワを歩く』（1963年）と『ナースチャ』（1993年）を比較しつつ明らかにした。そしてポスト・ソ連時代の映画の中で、このような聖別された空間としての地下鉄駅のイメージがどのように意図的に棄損されたのかを、モスクワ地下鉄における無差別殺人テロを描いた『パイロットたちの科学的セクション』（1996年）や地下鉄トンネルの崩落事故による大量死を描いた『メトロ42』（2013年）から論じた。

テーマ3では、ソ連映画におけるモスクワの集合住宅の表象を取り上げた。ソ連時代を通じて、労働者向け住宅の設計と建設は政治的・イデオロギー的論争の主要な対象であり続けた。スターリン期には都心にエリート向け・家族単位の豪華なアパートメントが建設される一方で、大多数の労働者は台所やバス・トイレを共有する共同住宅（コムナルカ）に住まうことを強いられた。一転フルシチョフ期には、スターリンの住宅政策への批判から、プレファブ化された家族単位の集合住宅、日本でいうところの「団地」が大量生産された。

このような歴史的経緯を踏まえたうえで、テーマ4では『運命の皮肉』（1975年）、『モスクワは涙を信じない』（1979年）、『パクロフスキエ門』（1982年）などソ連時代に大ヒットを記録した映画作品を取り上げ、集合住宅をめぐるイデオロギーの変化（とりわけ家族の位置づけをめぐる問題）や格差の問題などがどのように描写されてきたかを論じた。

テーマ5では、スターリン時代のモスクワ再開発計画と、それによって生み出された首都モスクワを頂点とする求心的な空間イメージを取り上げた。スターリン自身の主導による再開発計画によって、モスクワはソ連、さらには世界の社会主義の中心という象徴性を担わされることになった。このような首都の特権的な位置づけは、映画内においてもモスクワ＝中央と地方＝周辺

という求心的な構造を生み出した。とりわけソ連時代を通じて繰り返し描かれたのが、地方からモスクワにやってきた登場人物の視点を通してモスクワの各所をめぐる、ヴァーチャルなモスクワ観光の場面だった。テーマ では、スターリン期の仮想のモスクワ観光の例として『アリオシャ・プツィツインの精神的成長』(1953年)、フルシチョフ期の同様の例として『僕はモスクワを歩く』(1963年)などの映画作品をとりあげ、同じモスクワの中でもどのような場所・建築物に焦点が当てられているかを比較し、首都をめぐるイデオロギーの変化を明らかにした。

#### 4. 研究成果

テーマ の研究成果については、2019年に開催された国際会議 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies における報告や 学術誌『スラヴ研究』第68号(2021年)に採録された論文「カタストロフィの空間 ポスト・ソ連映画の地下鉄表象」などに発表した。

テーマ の研究成果については、2020年、2021年に開催された北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター客員研究員セミナーを通じて発表した。同内容はオンライン・ウェブマガジン『ゲンロン』の連載「革命と住宅」でも公開している。さらに2022年2月に報告者が企画・主催したオンライン・シンポジウム「日韓ソ映画における団地イメージの変遷」では、日本、韓国映画の専門家を招き、ソ連の集合住宅の表象を韓国の事例と比較しつつその特色や問題点を論じた。

テーマ の研究成果については、2021年に開催された国際会議 The 10th World Congress of International Council for Central and East European Studies における報告や 国際論文集『Русская культура на перекрестках истории: Дальний восток, близкая Россия. Вып. 4. (歴史と交差するロシア文化 遠い東、近いロシア第4巻、2021年)』に採録された論文『Politics of the Image of a Socialist Edifice: The Palace of the Soviets in Soviet Films』などに発表した。

さらにテーマ と に関しては、2022年1月刊行された単著『都市を上映せよ：ソ連建築が築いたスターリニズムの建築空間』(東大出版会)にその成果をまとめた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 68
2. 論文標題 カラストロフィの空間 ポスト・ソ連映画の地下鉄表象	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 スラヴ研究	6. 最初と最後の頁 123-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 71
2. 論文標題 革命と住宅 第5章 プレジネフカ ソ連団地の成熟と、社会主義住宅最後の実験（前篇）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 69
2. 論文標題 革命と住宅 第4章 フルシチョーフカ ソ連型団地の登場（後篇）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 68
2. 論文標題 革命と住宅 第4章 フルシチョーフカ ソ連型団地の登場（前篇）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 65
2. 論文標題 革命と住宅 第6回 第3章 スターリン住宅 新しい階級の出現とエリートのための家	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 62
2. 論文標題 革命と住宅 第5回 第2章 コムナルカ 社会主義住宅のリアル(後)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 61
2. 論文標題 革命と住宅 第4回 第2章 コムナルカ 社会主義住宅のリアル(中)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 60
2. 論文標題 革命と住宅 第4回 第2章 コムナルカ 社会主義住宅のリアル(前)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 10
2. 論文標題 ソ連団地の憂鬱	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 248-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 48
2. 論文標題 亡霊建築論6：ガラスのユートピアとその亡霊	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 57
2. 論文標題 革命と住宅：社会主義的住まいの実験（前篇）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 58
2. 論文標題 革命と住宅：社会主義的住まいの実験（前篇）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 91
2. 論文標題 過去から見る住宅の未来	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アステイオン	6. 最初と最後の頁 149-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 10.5
2. 論文標題 亡霊建築論：ロシア構成主義とアンピルトのプログラム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 68-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 36
2. 論文標題 亡霊建築論1：ロシア構成主義とアンピルトのプログラム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 38
2. 論文標題 亡霊建築論2：エイゼンシテインの『全線』とソフホーズの亡霊	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 本田晃子	4. 巻 40
2. 論文標題 亡霊建築論3：《ソヴィエト宮殿》、あるいは増殖する亡霊	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 42
2. 論文標題 亡霊建築論4：《ソヴィエト宮殿》、あるいは透明なガラスの不透明性について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田晃子	4. 巻 44
2. 論文標題 亡霊建築論5：プロツキーとウトキンの建築博物館、あるいは建築の墓所	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ゲンロン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名	4. 巻 609
2. 論文標題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名	6. 最初と最後の頁 69-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Akiko Honda
2. 発表標題 Image Politics of Socialist Edifice: Analysis of the Palace of the Soviets Appearing in Soviet Films
3. 学会等名 International Council for Central and East European Studies X World Congress (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akiko Honda
2. 発表標題 From Palace to Pandemonium: An Analysis of the Imagery of the Moscow Metro in Soviet and Post-Soviet Films
3. 学会等名 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiko Honda
2. 発表標題 Image Politics of Socialist Edifice: Analysis of the Palace of the Soviets Appearing in Soviet Films
3. 学会等名 International Council for Central and East European Studies X World Congress (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本田 晃子
2. 発表標題 不条理空間としての地下鉄 アンドレイ・イ監督『パイロットたちの科学捜査課』における地下鉄表象分析
3. 学会等名 日本ロシア文学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akiko Honda
2. 発表標題 Two Types of Aesthetics in One Film: Image Analysis of Sovkhoz Building in Eisenstein's The General Line
3. 学会等名 The 9th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 本田 晃子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 304
3. 書名 都市を上映せよ: ソ連映画が築いたスターリニズムの建築空間	

1. 著者名 Akiko Honda	4. 発行年 2021年
2. 出版社	5. 総ページ数 428
3. 書名 : 4.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------